

教師としてどうありたいか？

～TPチャートの作成を通じた自分の理念への気づき～

東京大学 栗田佳代子

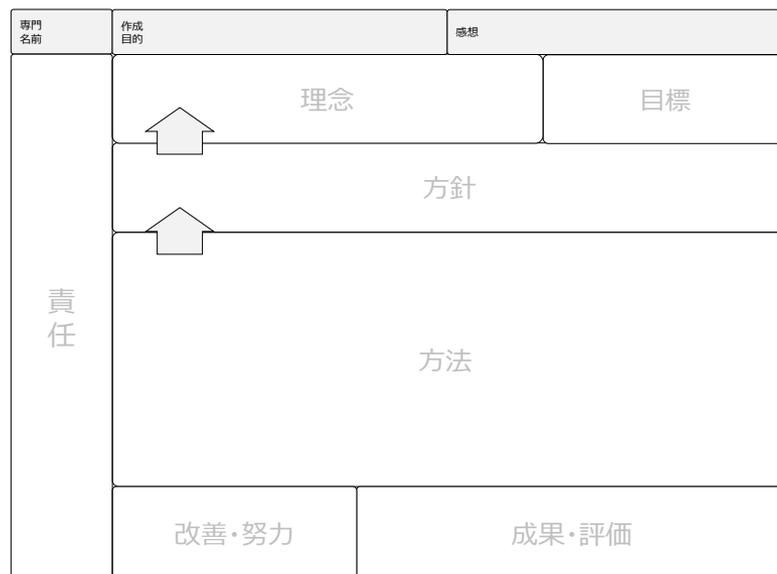
はじめに

目次

(TP : ティーチング・ポートフォリオ)

- はじめに
- TP と TP チャート
- TP チャートの作成
- TPチャートの見直し
- 共有による改善

- 参考資料



目的と到達目標

- **目的**

- TPチャートの作成を通して
教育活動を俯瞰し、自身の教育活動の
理念・信念を明らかにして
これからの教育活動をよりよく変える

- **到達目標**

- TPの作成目的や構造、気付きのプロセスを説明できる
- TPチャートの作成を通して,
 - 教育活動を俯瞰できる
 - 教育理念に自ら気づいて書ける
 - 教育理念と方針・方法の結びつきを説明できる
 - これからの教育に活かすための長期目標・短期目標を設定できる
- TPチャートの共有によって、改善のヒントを互いに気づきあい、明日からの教育に生かす

TP と TP チャート

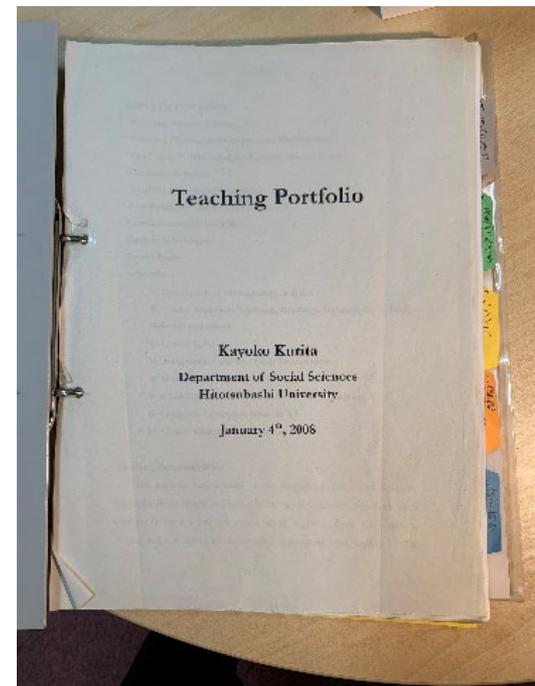
ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは

- 自らの教育活動について振り返り，その記述を根拠資料（エビデンス）によって裏付けた厳選された記録
(栗田訳，セルディン著 2007)
- A4判で8ページから10ページほどの本文とエビデンスから構成される文書

- **作成の目的**

- 教育改善
- 教育活動の可視化

- 多角的な教育業績評価資料
- 優れた取り組みの共有
- 情報発信



TPの構成

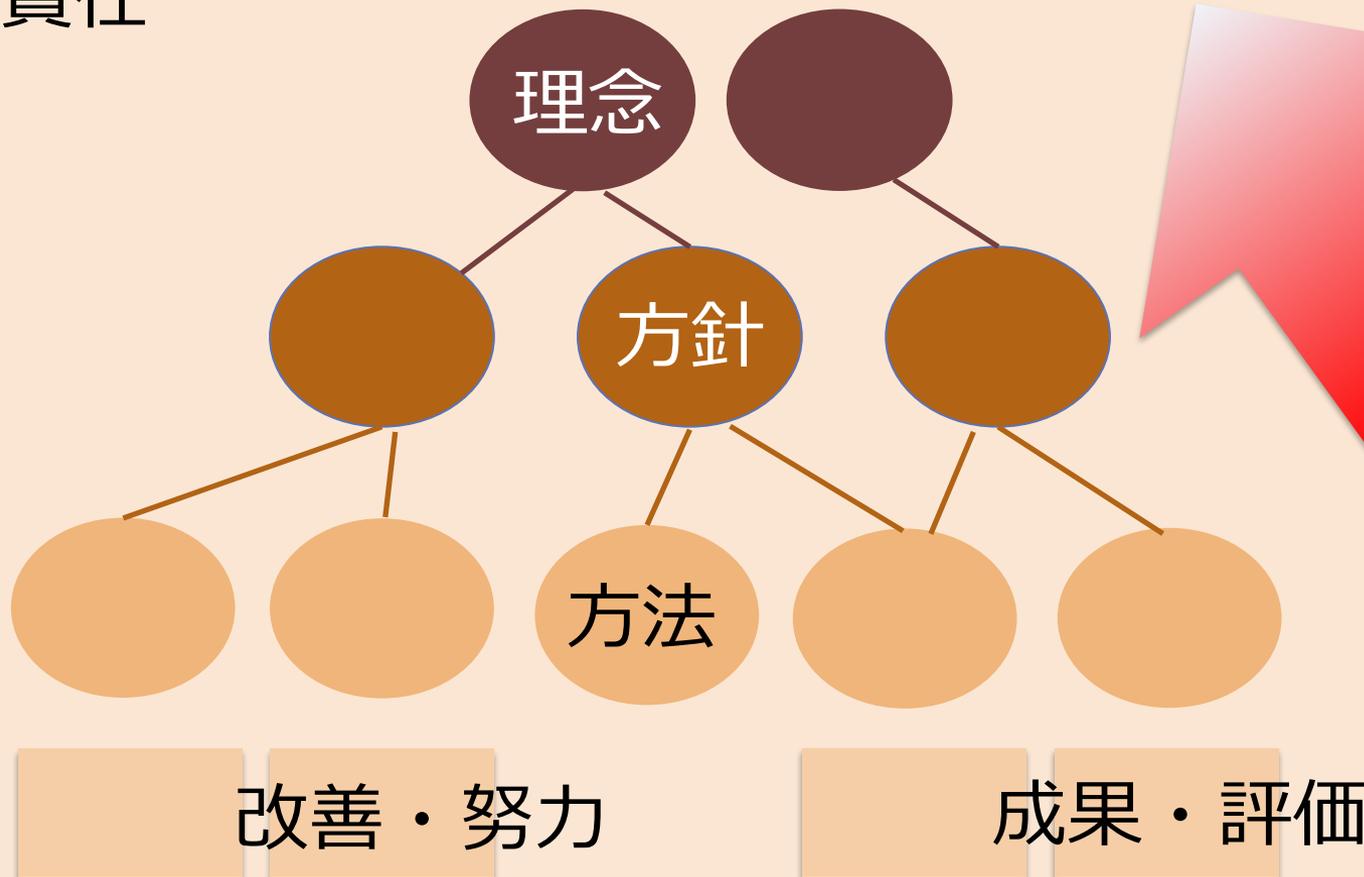
- 責任 なにをやっているか
- 理念 なぜやっているか
- 方針・方法 どのようにやっているか
- 成果・評価 どのような結果が得られたか
- （改善・努力 どのように工夫してきたか）
- 目標 これからどうするか

TPによる気づきのプロセス

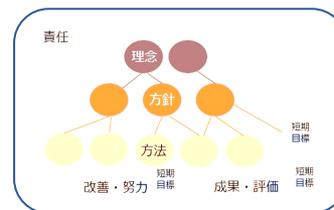
責任

TPによる気づきのプロセス

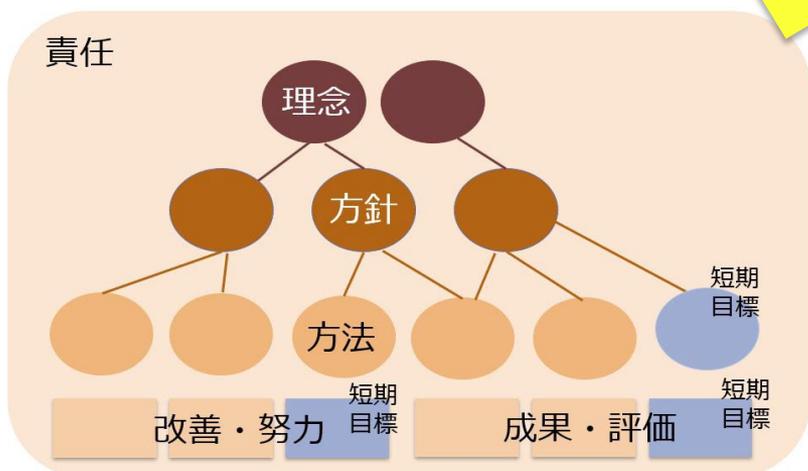
責任



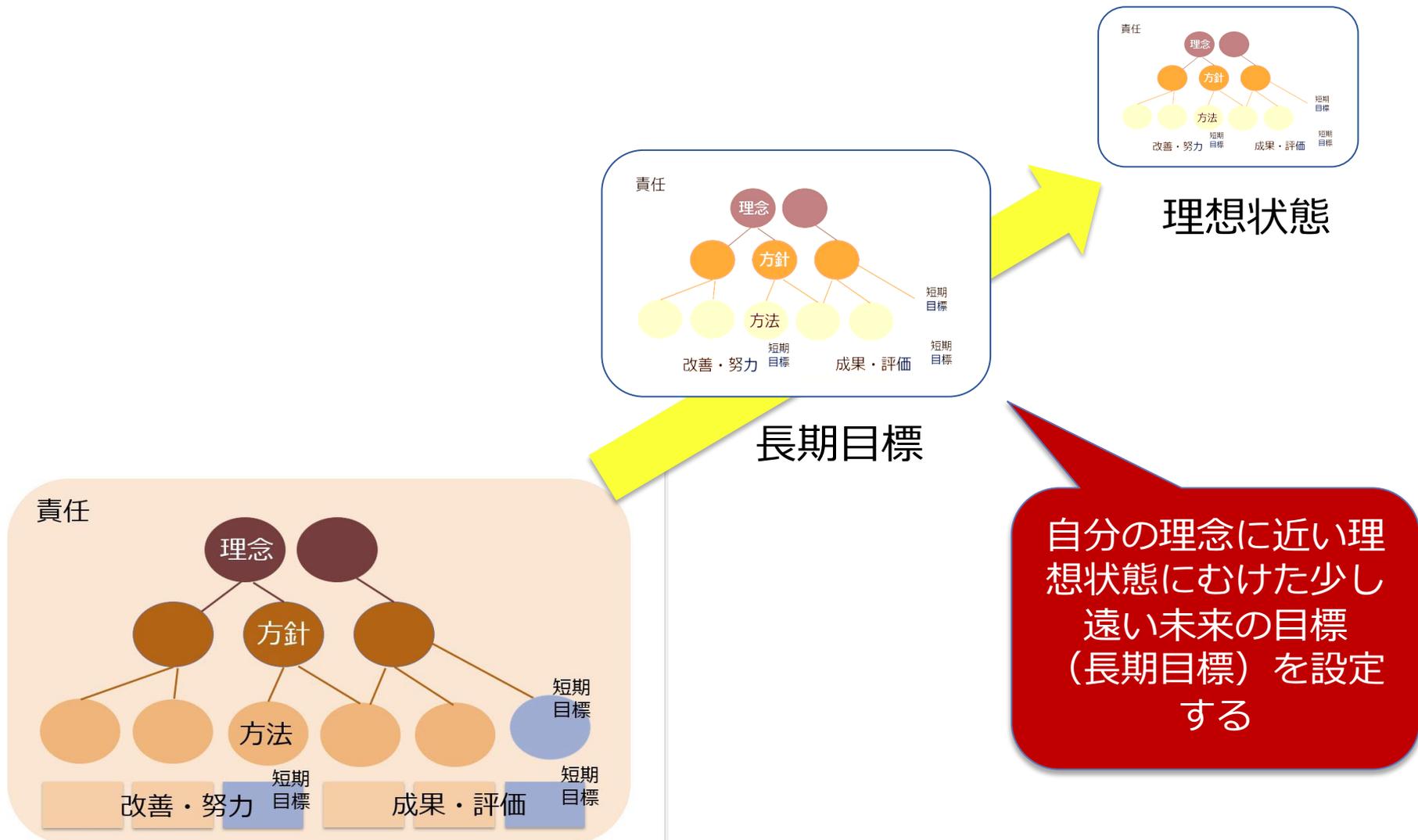
TPによる気づきのプロセス



理想状態

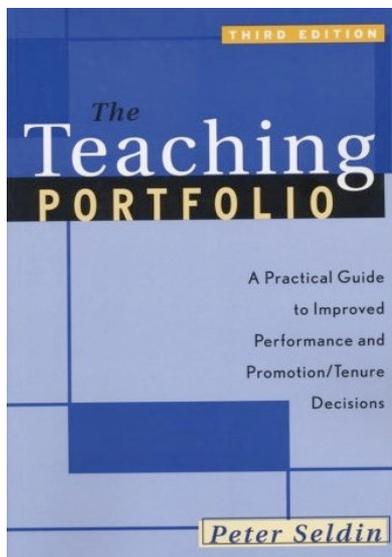


TPによる気づきのプロセス

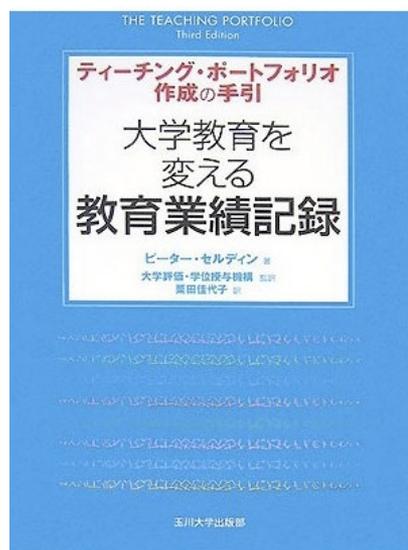


普及の現状

- 欧米では教育改善・教育業績評価資料として広く普及
 - 教員養成課程の学生、現任教員が作成することは一般的
- 日本では主として教育改善ツールとして普及途上
 - 中教審答申(2008)「学士課程教育の構築に向けて」
 - 日本でも導入が進みつつある



セルディンの原著



栗田の訳書

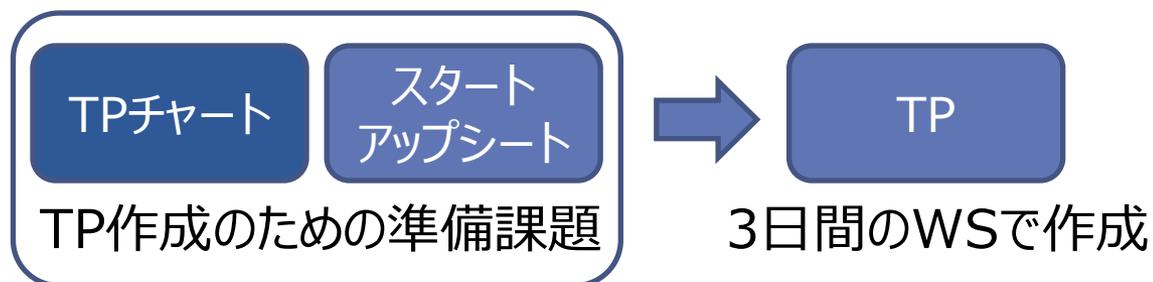


TPチャートについて



TP チャートとは

- 教育活動の俯瞰と振り返りを行い，授業改善につながることを目的としたA3判のワークシート
- もともと**TP作成の体験ツール**として開発
TP作成の事前準備としても利用される
- **特徴**
 - 個人の教育活動の視覚的整理
 - 自己省察による俯瞰と構造化
 - 短時間で作成が可能



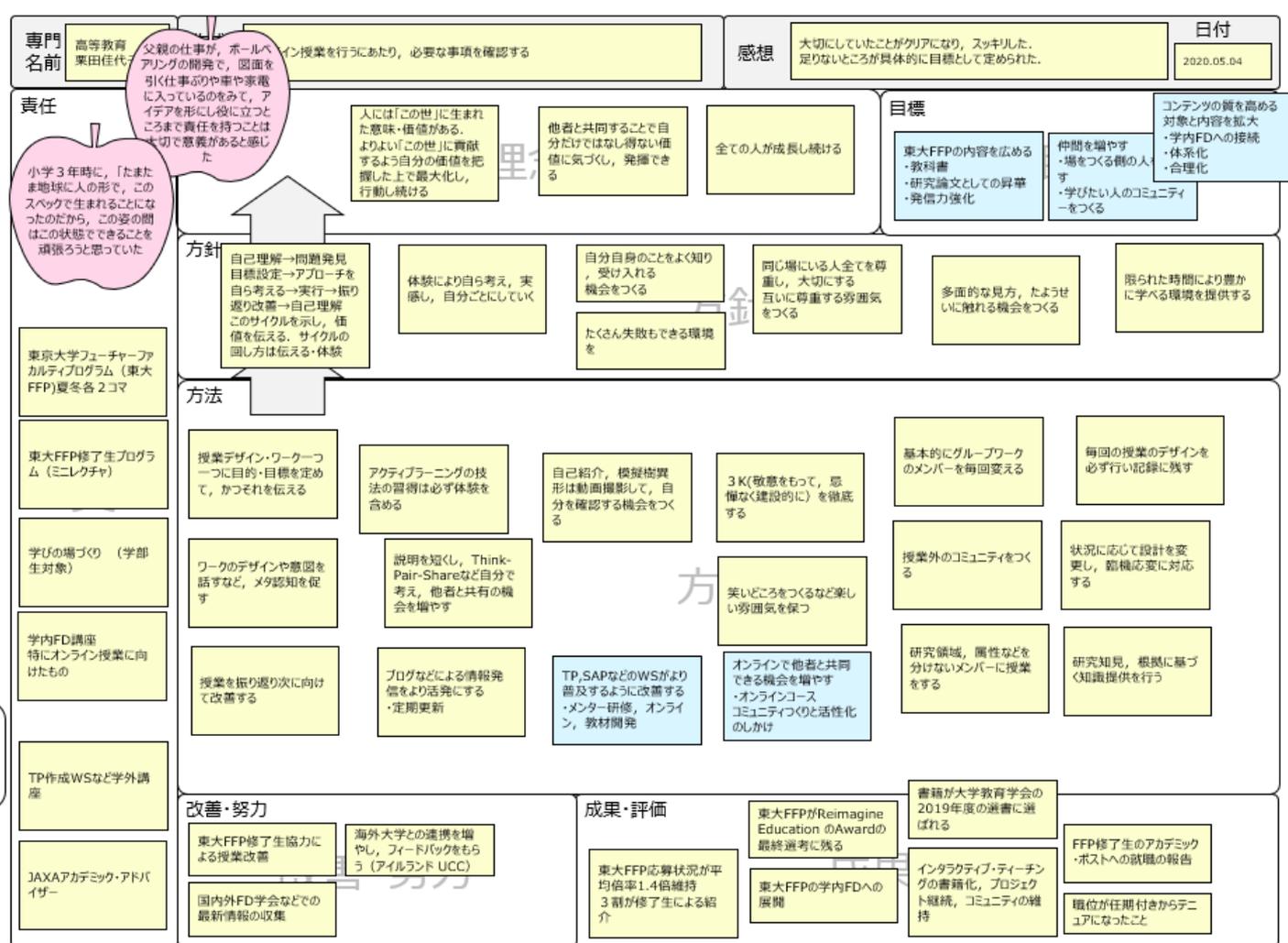
作成の研修例



TPチャートの実例 (紙)

| | | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|--|
| <p>専門 高等教育 FD 名前 栗田桂枝子</p> | <p>作成目的 活動の整理と今後の方向性を定める</p> | <p>感想 大切にしていることがクリアになり、ありました。足りないところが具体的に目標として定めました。</p> | | <p>コミニティの質を高める対象と内容を拡大 ・学内FDへの接続 ・体系化 ・合理化</p> | | |
| <p>小学3年生からの直に お話をしたことに 対峙して地球に人の形を このスパンで生まれること には、たのびながら、この 間は、この未来で生きる ことをかまわう、と 思っていた。</p> | <p>父親の仕事 ボロボロに片づいた 部屋をひたひたまで 掃除しているところを見て、 「パパを助けて、後回し にまわす性をもつこと は、大抵の職業が あると気づいた。</p> | <p>人々の世に生かす 意味、価値がある より良い世に貢献 するよう自分の強みを発揮 した上で、最大限行動し ていく</p> | <p>他者と共同すること、 自分だけじゃわからない 価値を発揮できる</p> | <p>学生も大人、教員も 子ども そこは優待はない</p> | <p>東大FDの内容を定める ・教科書にある ・研究論文として発表 SoTL ・発信力強化</p> | <p>仲間をよめる ・場をつくる周りの人と つながる ・学びたい人の コミュニティをつくる</p> |
| <p>東大FDのフェーズ別 プログラム(東大FD) 夏冬春3コマ ミラバス、学会発表、 Webサイト</p> | <p>自己理解 振り返り改善 目標設定 実行、評価、振り返り このサイクルを繰り返し、振り返る サイクルの利便性を高める</p> | <p>体験により 自ら考え、実感し、 気づき、気づきとしていく</p> | <p>自分自身のこと よく知り、受け止める 機会をつくる</p> | <p>同じ場にいる人全て 尊重する。 互いに尊重する雰囲気 をつくる。</p> | <p>多面的な見方、 多様性にある機会 をつくる</p> | <p>限られた時間にも 豊富に学べる環境 を提供する</p> |
| <p>東大FDの生プログラム Webサイト、学会発表、 本、翻訳</p> | <p>授業計画に、7-7-7の に目的・目標を定めて、 かつそれを伝える スライド シナプス</p> | <p>アクティブラーニングの技法 の獲得は、必ず体験と つながる スライド シナプス</p> | <p>自己紹介、課題発表、 動画撮影、自分と 確認する機会をつくる 東大FDのYouTubeチャンネル の運用、シナプス SAPサイト</p> | <p>3K(得意も、了、了、了、 建設的)に徹底する スライド</p> | <p>基本的にグループワークの メンバーを毎回変える スライド Web</p> | <p>毎回の授業のデザイン を必ず行う記録に 添う クラスメイトシート</p> |
| <p>インテグレーション・ ワークショップ (オンライン講座) Webサイト</p> | <p>ワークのテーマや意図を 語ることで、より認知を 促す。 スライド 動画</p> | <p>説明を短くし、 Think-Pair-Shareなど、 自分と話し、他者と共有の 機会をつくる。 クラスメイトシート スライド</p> | <p>TP, SAPのワークシート がより重要な役割がある ・ワーク研修 ・オンライン ・教材開発</p> | <p>笑いをとることで、 楽しい雰囲気をつくる 受講者のアンケート 録音</p> | <p>授業外のコミュニティを つくる ライブ配信 グループ</p> | <p>状況に応じて、 設計を変更し、 臨機応変に対応する クラスメイトシートの 70%の変更履歴</p> |
| <p>初年次ゼミ(理系) 英語授業 担当表</p> | <p>授業とより近い、次に 向けて改善する クラスメイトシート更新版 スライド、資料更新版 before-after</p> | <p>活動などによる 情報発信とより つながる ・定期更新</p> | <p>オンラインで、他者と協同 できる機会をつくる ・オンラインコース ・コミュニティの対話 のしかた</p> | <p>研究領域、属性、学生、 教員などを分けない メンバーに授業をする 葛葉勇輝 シナプス</p> | <p>研究知見、形では 見えない スライド(参考資料)</p> | |
| <p>ワークショップの 作成ワークシート 案内、実施要領 依頼状</p> | <p>東大FDの生協会の 改善 改善前後のシナプス、資料 改善研究会議録</p> | <p>国内外FD学会などの 最新情報の収集 学会参加証</p> | <p>東大FDの生協会の 4倍 増員が完了生紹介 E-トレーニング</p> | <p>東大FDの学内FDの 展開 フェーズ別 新任教職員研修</p> | <p>インテグレーション・ ワークショップ ・書籍化 ・プロジェクト ・コミュニティの維持 普及、寄附受入書 Webサイト、グループ</p> | <p>職種が任期付から 正職に、正職に 昇格</p> |

TPチャートの実例 (デジタル版)



© 2016 Kayoko Kurita

教育理念を明らかにすることの価値

- **教員にとって**
 - 教育者としての**アイデンティティ**の確認
 - **プロフェッショナル**としての教育責任の定義
 - 自分の**行動原理の明文化**
 - 安定的で継続的・長期的な**教育のガイダンス**の提供
 - 教育者としての**成長の支え**
- **組織にとって**
 - 組織の理念と教員個人の理念がどう位置づくのかを問うチャンス
 - 教育重視のカルチャーを教員に伝える機会
 - 教員や学生の変化をとらえる文書
- **学生・生徒にとって**
 - より生産的に学びにエンゲージできる
 - 教育理念の共有のゴールは「明示的な」学生のサポートと尊重
(Goodyear & Allchin 1998)

共有の意義

TPチャートを共有するワークの意義？

- 自分を知る
- 互いの多様性を知る
- 互いの類似性を知る
- 互いの理念から学ぶ
- チームの基礎をかたちづくる
- 横関係のつながりを経験する
- (方法を) 授業に応用する

グラウンドルール

安心安全の場を一緒につくるために. . .

- ・ 3K：敬意をもって，忌憚なく，建設的に
- ・ 自分のための時間をつかってください
- ・ 相手にとってのサポーター

TPチャートを作成することで、ご自身の教育活動全体をふりかえり、理念を見出し、その理念をもとに整理します

TP チャートの作成

TP チャートの作成

- 作成の流れ
 - 普段の活動から背後の深い思考・姿勢にせまります
- ふせんについて
 - 一つのふせんに一つの事項を記入します
 - 黄：これまで・現在のこと
 - 青：これからのこと
 - ：個人エピソード
- 基本的に黄色の大きなふせんを使います
- 異なる色、サイズのふせんを使う場合には適宜お知らせします
- (デジタル) ふせんのサイズ変更は「やむを得ず」の場合に

専門
名前

作成
目的

感想

3 min

理念

基本情報の記入

- ・専門と名前を直接記入してください
専門の例) (小中高) 数学, 英語, 日本史
(大学等) 看護学, 生体医工学
- ・作成目的を直接記入してください
例) 授業の改善, 気づきを得たい, 活動を整理したい

任

方法

専門と名前はペアでのシェアの時に使います
目的を定める理由は, 作成する意識を高めるためです

直近 1 年以内の教育活動をあげてください

授業の例) 古文 1年A組
統計学 必修

その他) 進路指導 就職指導

剣道部顧問 入試問題作成

オープンキャンパス 運動会進行担当

カリキュラム開発 研究室指導

新任教員メンター

6枚以上に
なりそうなら
ふせん小

責任

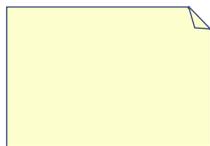
あなたが教育活動だと思うものは全て挙げてもらって構いません
これらは教育を振り返るための材料だと思ってください

教育活動における改善
および努力（改善を目的とした活動）をあげてください

改善の例) 反転授業の導入
ルーブリックの導入

努力の例) 授業改善の研究会に週1回参加
アクティブラーニングについての勉強会を主宰
授業力向上のためのオンライン講座を受講
TPチャートの作成

3枚以上になりそうなら
ふせん小

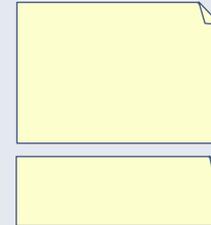


改善・努力

成果・評価

教育活動によって得られた生徒・学生の成果および生徒・学生・第三者からの評価をあげてください。

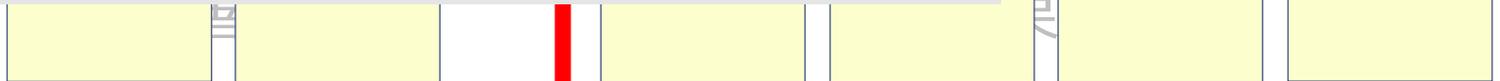
成果の例) 生徒の生物への興味が向上
試験の平均点が向上
部が大会で優勝



5枚以上になりそうなら
ふせん小

評価の例) 授業評価アンケートの結果
授業見学した同僚からのコメント
授業研究会で得たコメント
優秀教員賞を受賞

成果・評価に書けることは少ないかもしれませんが、成果・評価を意識することが大事であるため、少なくとも問題ありません！



シェア 1回目

責任, 改善・努力, 成果・評価

手元のチャートをもとに,
教育活動として行っていること, および改善・努力,
成果・評価について相手に説明しましょう。

グラウンドルール

安心安全の場を一緒につくるために. . .

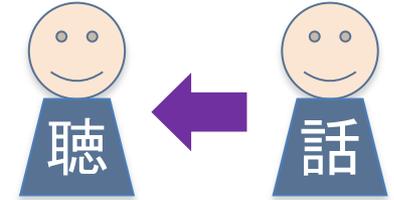
- ・ 3K：敬意をもって，忌憚なく，建設的に
- ・ 自分のための時間をつかってください
- ・ 相手にとってのサポーター

シェアのルール

敬意を持って
忌憚なく
建設的に

<話し手>

- 教育活動をわかりやすく説明する
- 専門用語は極力使わないか相手にわかるように説明する



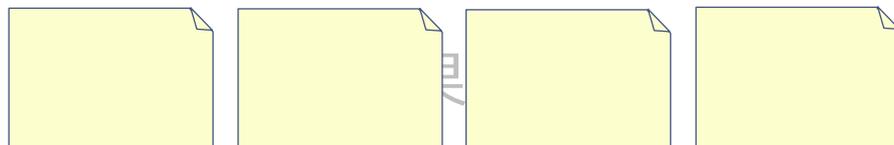
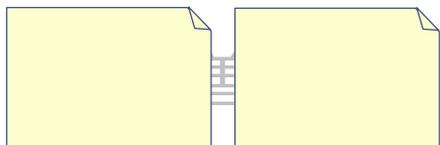
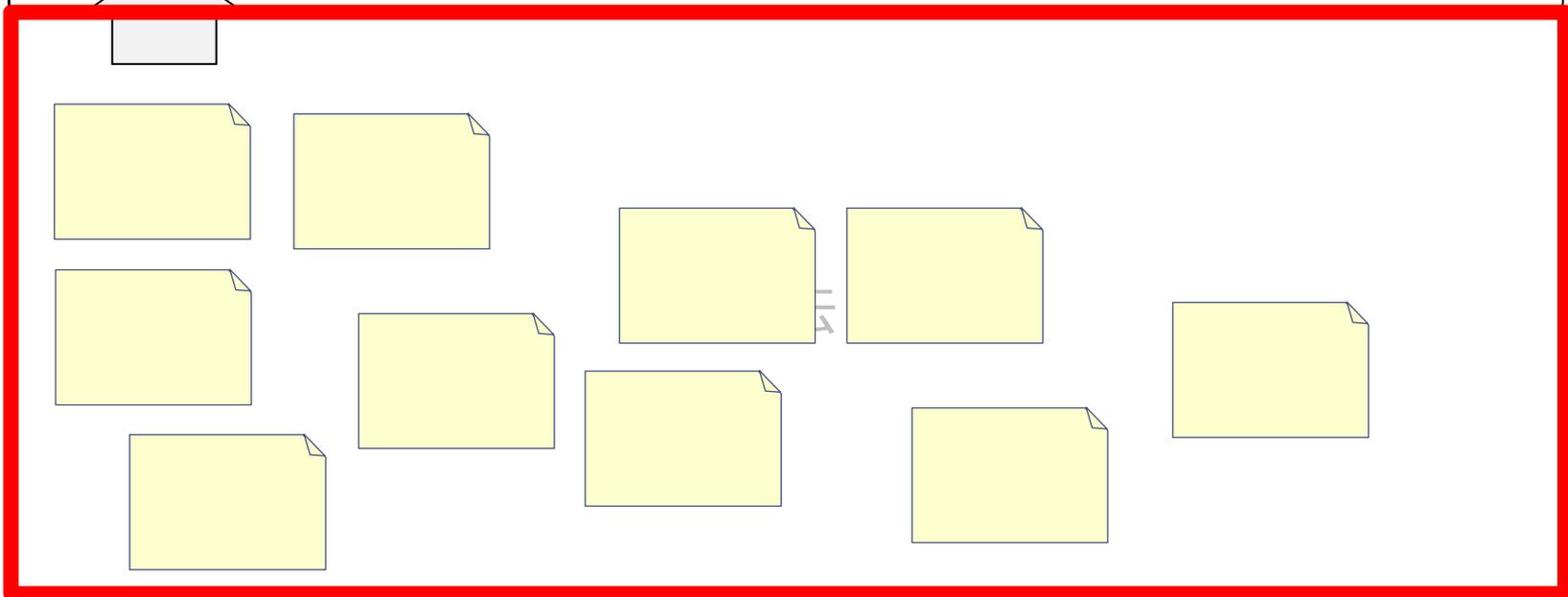
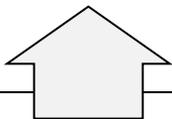
<聴き手>

- まずは興味を持って聴くことに徹する
- 相手をしっかりと受け入れる
- 相手の振り返りを深めることを目的にしたフィードバック（反応・質問など）をする

理念

目標

方針



これまでの教育経験において以下のものを挙げてください

いつも行っていること

重要視して用いていること

自分の教育を特徴づける方法

「考え」ではなく「行い」を書いて下さい

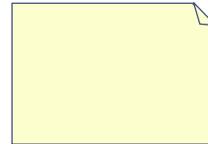
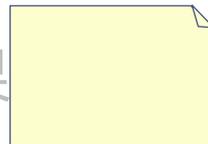
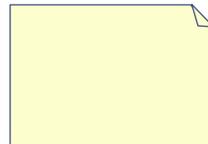
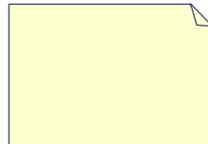
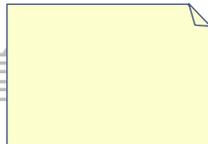
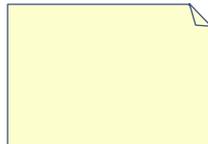
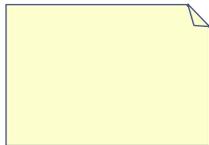
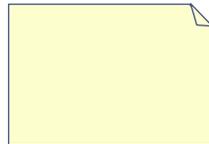
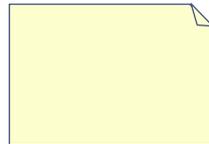
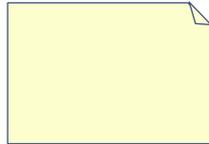
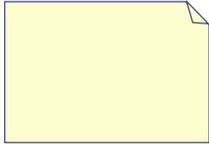
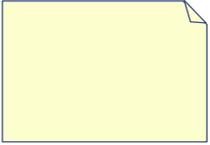
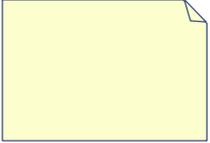
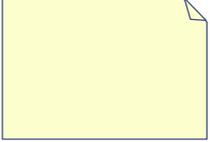
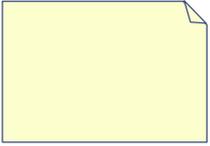
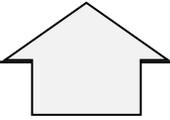
例) 小テストを授業最初に毎回している
授業開始・終了時間を厳守している
教科書を使わない
発言の機会を多くつくる
グループ活動を多用している
一緒に休み時間に遊ぶ

理念を見出す土台となるため、とにかくやっていることを書き出してみることが大切です。授業の準備をする時、実際に実施する時にやっていることを思い出してみましょう。

理念

目標

方針



以下の観点を参考に、なぜ書き出した「方法」を用いているのか、といった理由を考えてください。その理由を「方針」としてあげてください。

- ・なぜ生徒・学生にとってこの方法が大切なのか？
- ・この方法を使って生徒・学生にどう成長してほしいのか？
- ・学問のなにをどのように学んでほしいのか？

似ている「方法」があればグルーピングしてください（次ページ参照）。

例) ・ (方法) 「小テストの実施」

→ (方針) 「基礎知識を確実に身につける」

- ・ (方法) 「授業開始・終了時間を厳守している」

→ (方針) 「教員が自らルールを守る」という方針

- ・ (方法) 「発言の機会を多くつくる」

(方法) 「グループ活動を多用している」

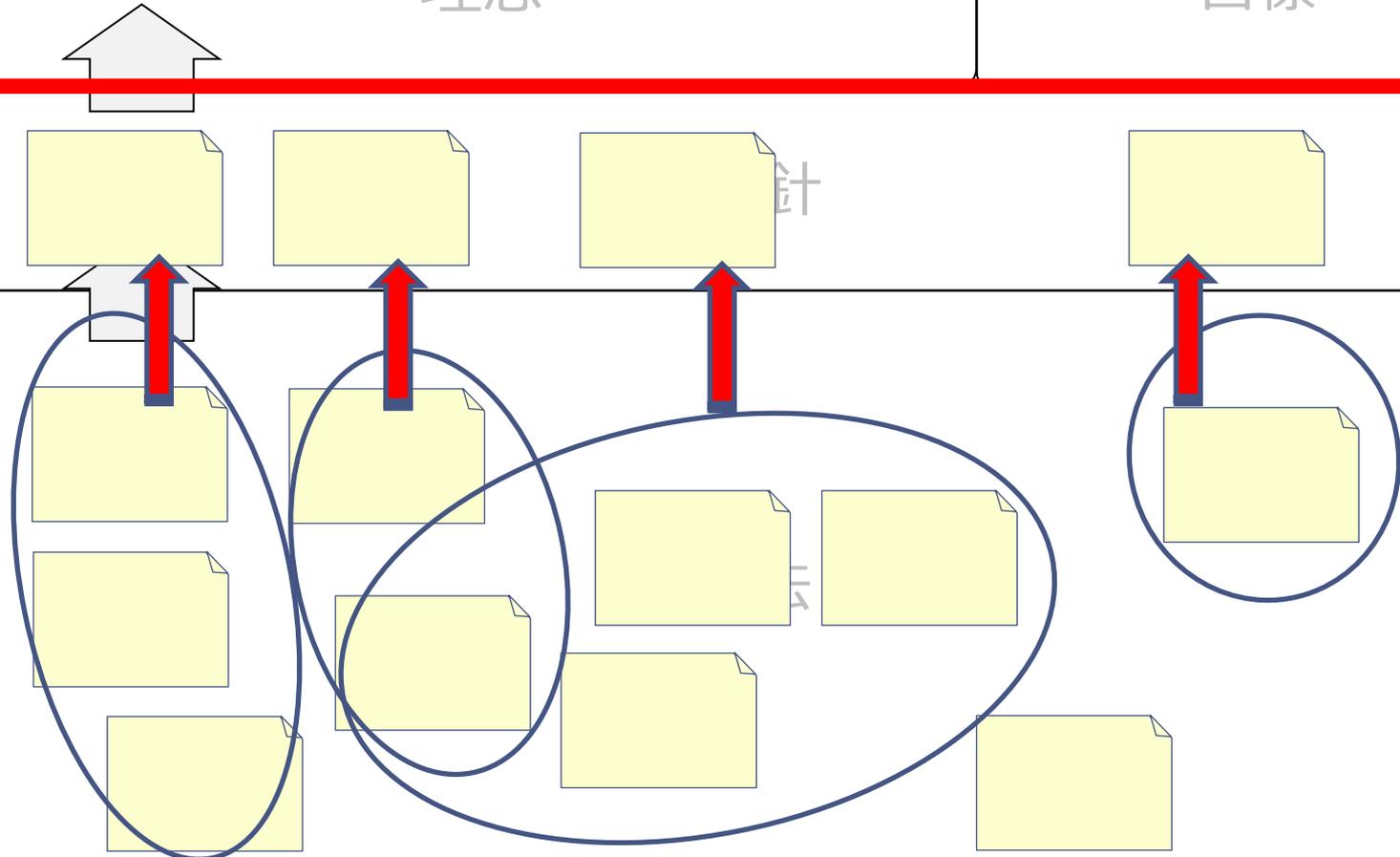
→ (方針) 「仲間との活動で学びが深まることを実感させたい」

方針

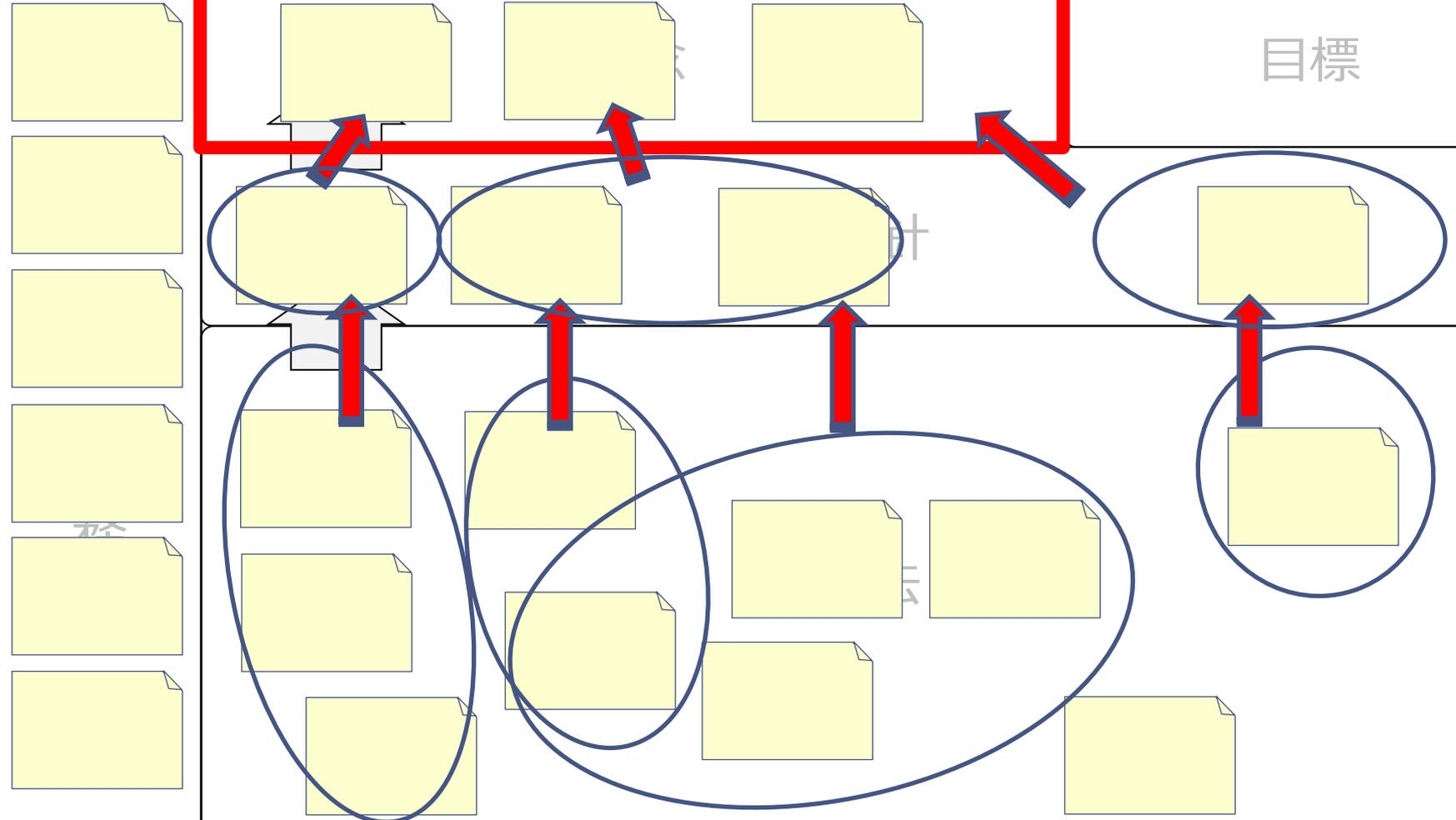
感想

理念

目標



グループは線で囲み、2つ以上みつけてください。
「方法」のふせんが一つしかないグループ、あるいは複数のグループにまたがる「方法」のふせんがあってもよいです。



みなさん独自の理念を見出してもらうことが大事なので、ここではあえて例を出しません。是非みなさんなりの理念を見出して下さい。

目標

「理念」に「方針」であげた事項をグルーピングしながら、その方針を用いている理由をあげてください。次の観点が理念を見出すヒントになります。

- ・どう成長してほしいか
- ・教員としてどうありたいか
- ・学問の何をどのように学んでほしいか

みなさん独自の理念を見出してもらうことが大事なので、ここではあえて例を出しません。是非みなさんなりの理念を見出して下さい。

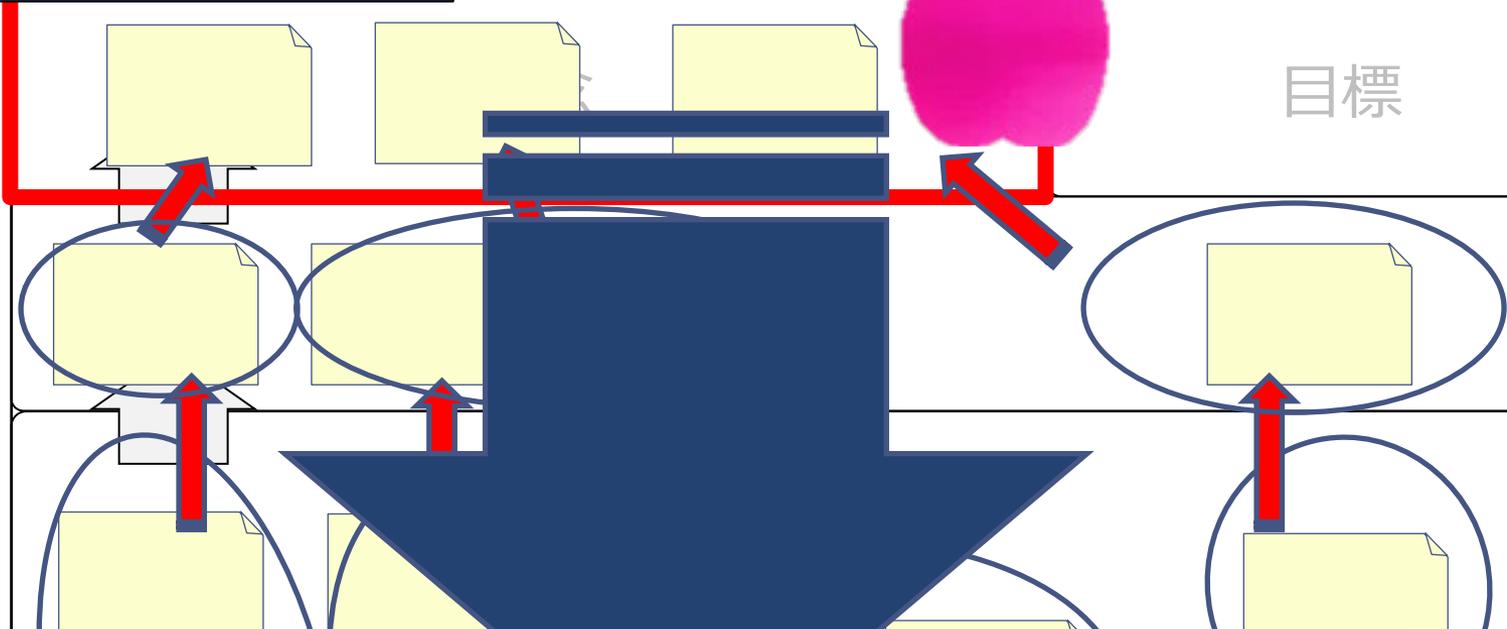
目標

「理念」について、理念を持つに至った個人的なエピソード（影響を受けた人物、影響を受けたできごと）があれば**りんごのふせん**にあけてください。

そして、新たに理念が見つかったら、それをふせんに書き出して、「理念」のところに追加してください。

例) (エピソード)「担任でもないのに、いつでも真剣に相談にのってくれた小学校の音楽の先生」
→ (理念)「〜〜〜」

目標



「理念」「方針」「方法」が対応づいているかどうかについて確認をしてください。

第2部「TPチャートを見直す」に詳しい対応づけのチェックの方法が載っているので、必要に応じてそちらのスライドを参照下さい。

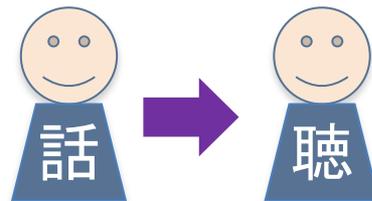
シェア 2回目

教育理念と方針・方法

手元のチャートをもとに、「教育理念」および「理念を具現化している方針・方法」とともに、相手に説明しましょう。

シェアのルール

敬意を持って
忌憚なく
建設的に



<話し手>

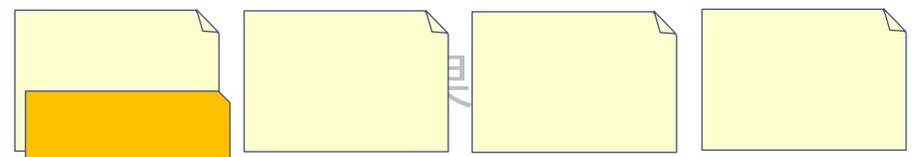
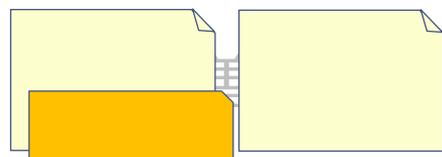
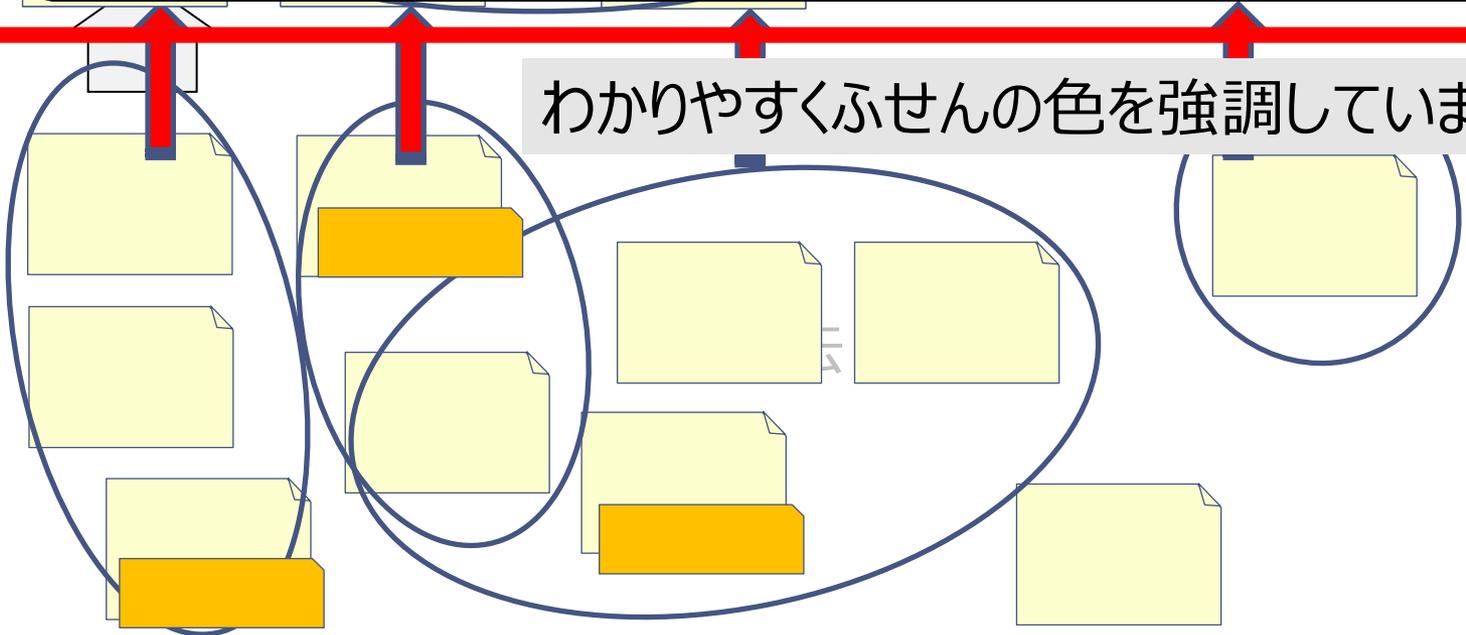
- 理念と方針・方法の対応付けを説明する
- 一つずつ理念についてその具現化として方針・方法をひもづける

<聴き手>

- まずは聴くことに徹し、受け入れる
- 相手の振り返りを深めることを目的にしたフィードバック（反応・質問など）をする

赤い枠で囲まれた部分（責任，改善・努力，成果・評価，方法）のふせんに書かれたことの根拠資料（エビデンス）を黄色の**ふせん小**に記入し，該当するふせんに重ねてはって下さい（例は次ページ）。

わかりやすくふせんの色を強調しています



例)

責任：時間割
任命書
シラバス

改善・努力：勉強会のチラシ
研修の参加証
資格取得証

成果・評価：優秀なレポート例
授業評価の結果
同僚からのフィードバックコメント
生徒の進路データ

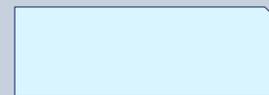
方法：配布資料の現物
テスト問題
グループワークの課題資料
授業ノート
授業の様子の写真

目標

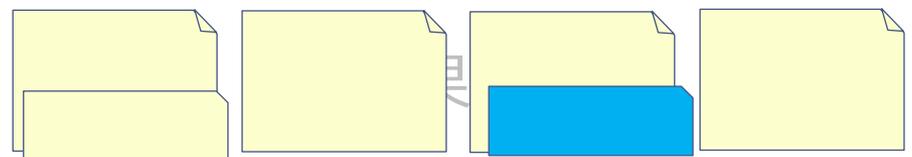
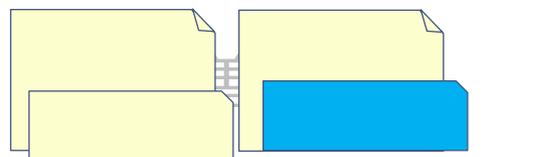
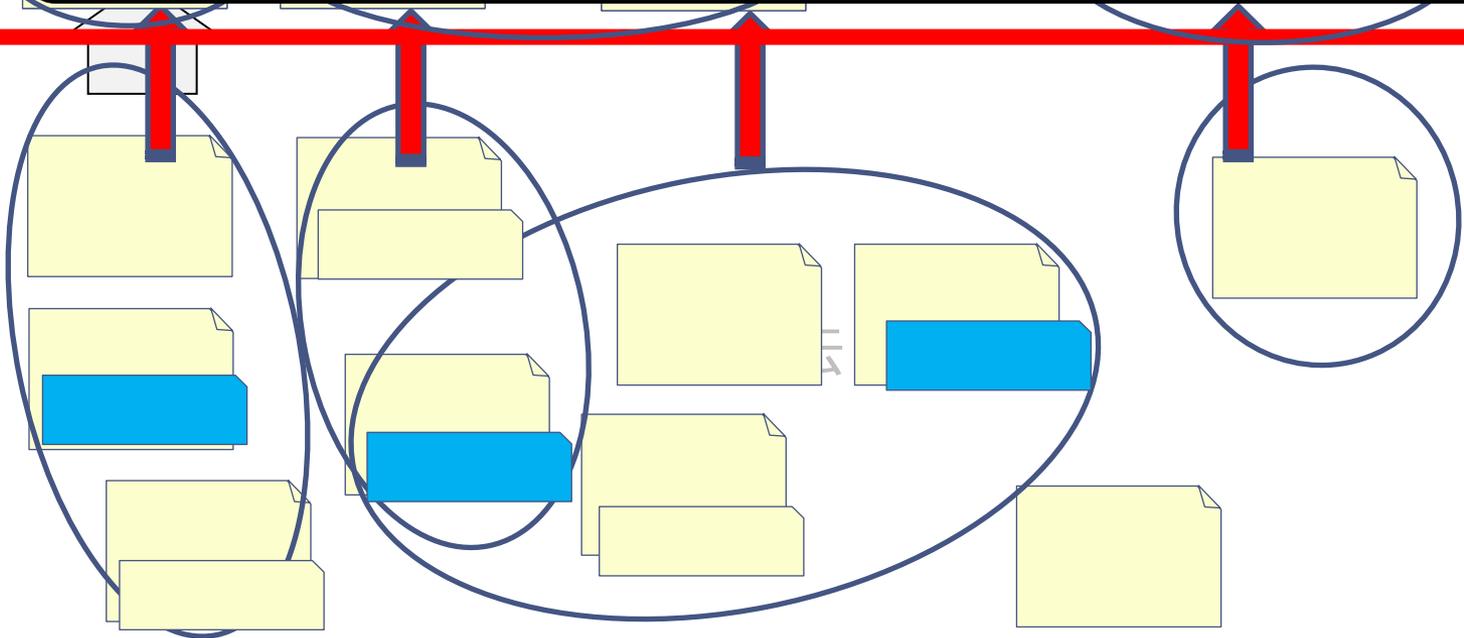
全部に貼れなくても
全く問題ありません。
やったことのエビデンス
を持っておくことが
大事である、という
感覚を持ってもらい、
今後、エビデンスを
残す習慣をつけること
が重要です。
一方エビデンスをとる
ことが目的化しない
ようにも注意してくだ
さい。

エビデンス

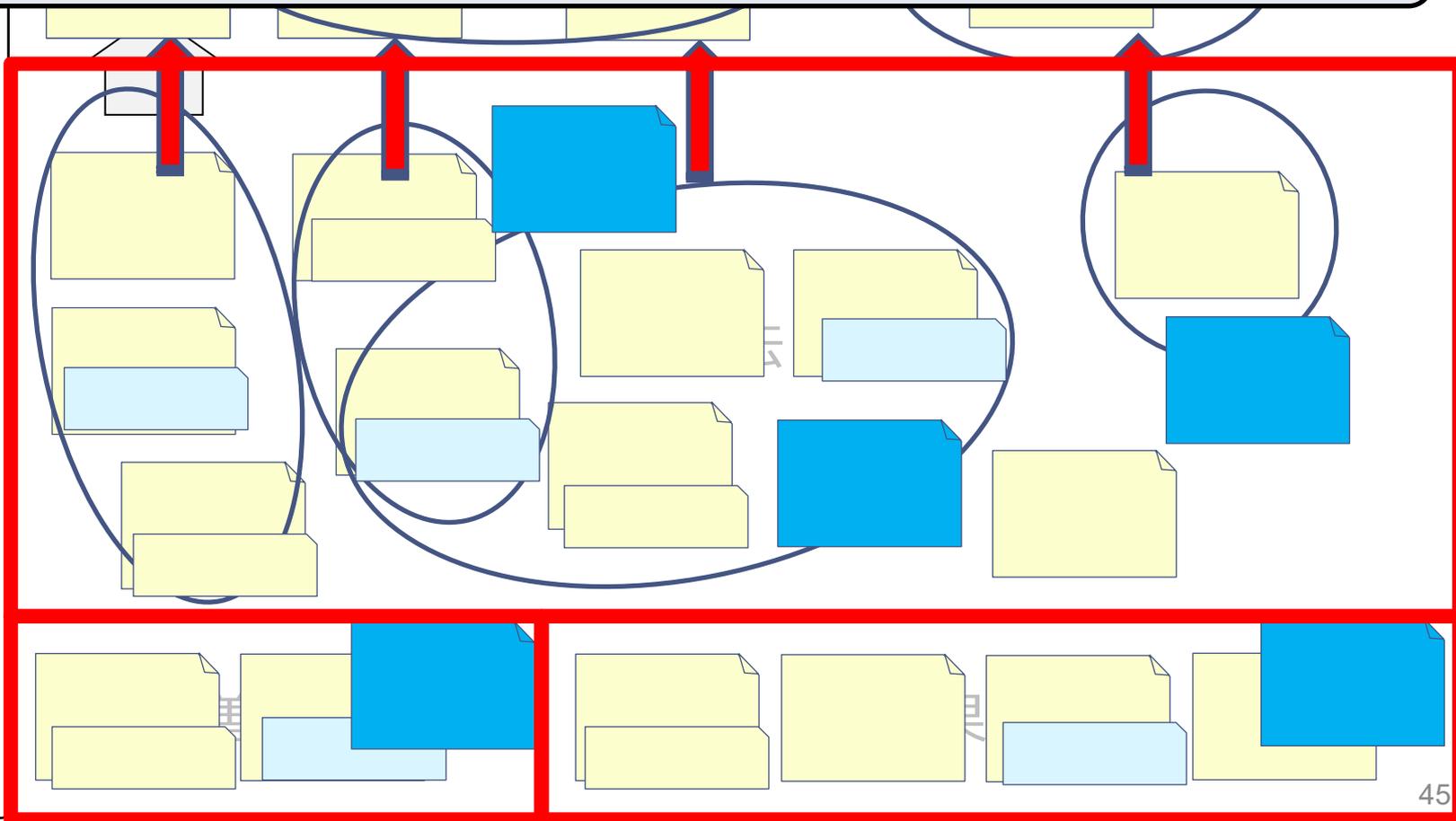
ふせん小をつけられなかったふせんのエビデンスを互いに考えましょう。考えたエビデンスは青のふせん小に挙げ、該当するふせんに重ねてはりましょう（次ページ参照）。



互いにエビデンスの黄ふせんがはられていないところについて、
どのようなエビデンスがとり得るか検討します。
見つかったら青ふせんに記入して追加しましょう



短期目標として「方法」「改善・努力」「成果・評価」に書き出して見ましょう。できる・できないが明確にわかるよう具体的に書きましょう（例は次ページ）。



目標

例)

方法:ループリックをとりいれる

ポスター発表をとりいれる

授業案をつくり, 毎授業後に改善する

改善・努力:クラス運営についての研修に参加する

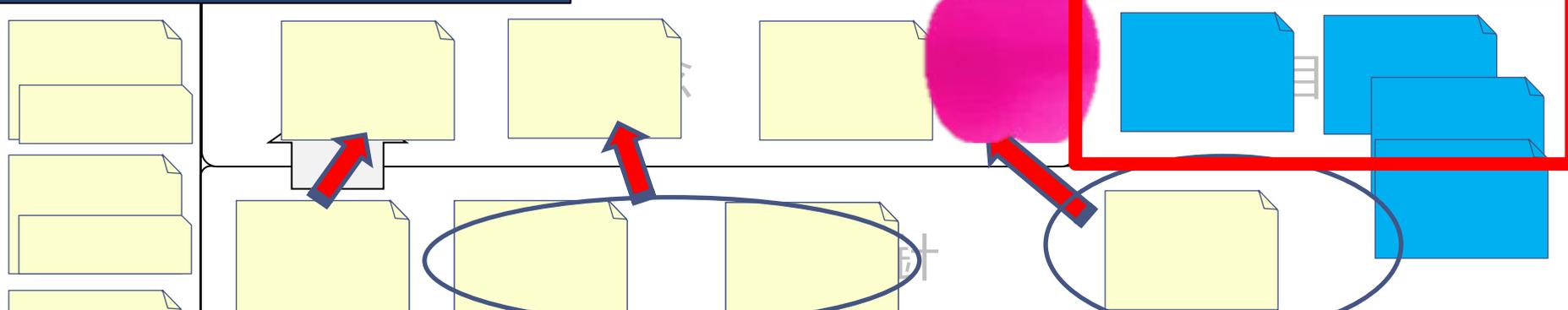
教科教育に関する研究集会に参加する

成果・評価:授業内容への興味・関心度を高める

模試の学校平均を○点に上げる

教育実践について学会で発表する

生徒の研究を○○へ応募する

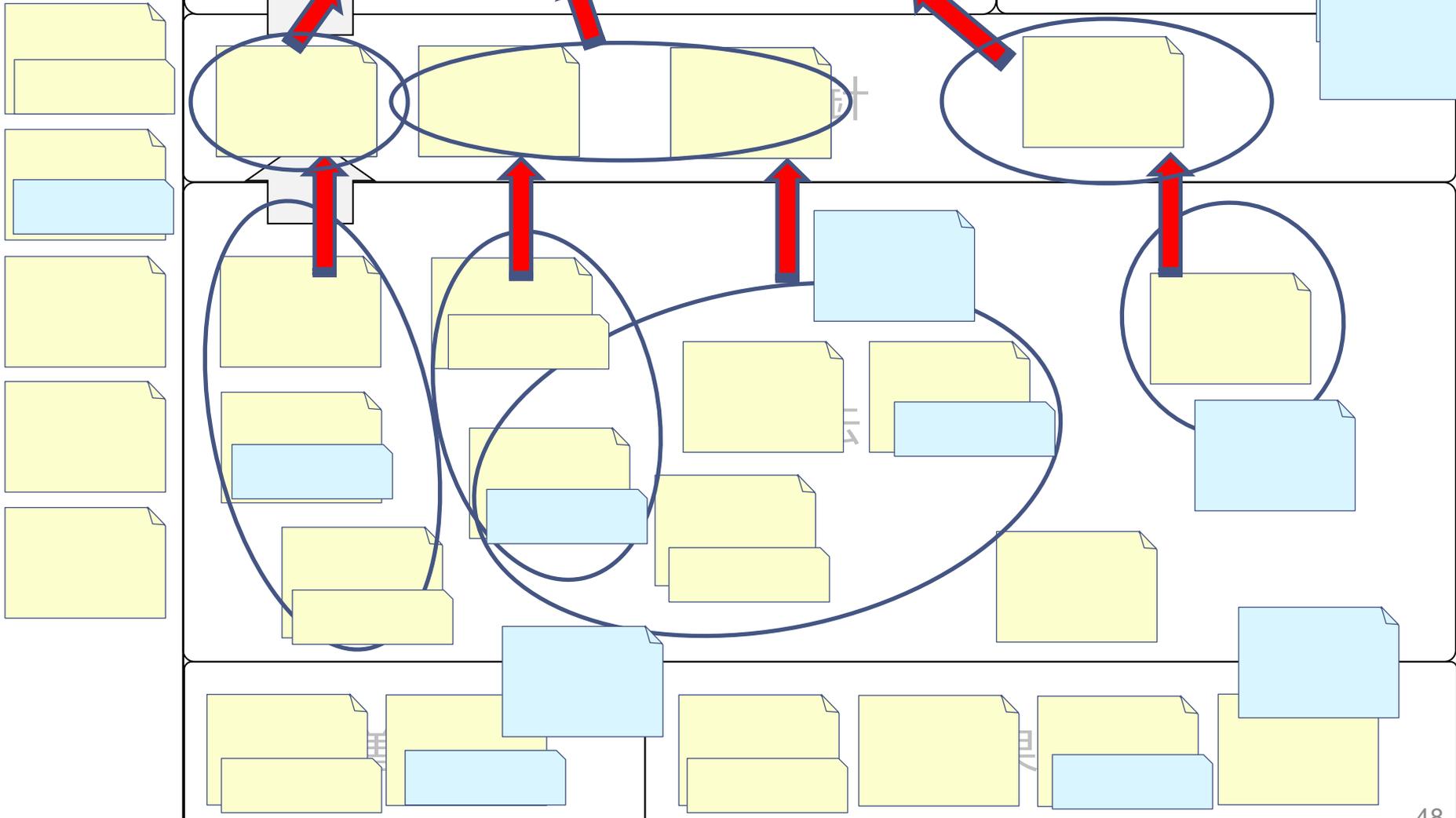


全体を見渡し、今後達成したいと考える教育に関する目標を考え「目標」のところに書き出しましょう。その目標に向けた短期目標が設定出来る場合にはそれも具体的に書きましょう。

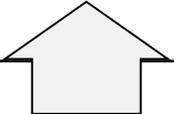
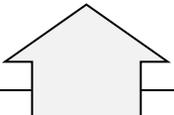
例) 単なる受験対策ではない生きる力として必要なことを教える授業をつくりたい

そのための短期目標：
 国内外の理想の実践を探す
 学内外で仲間を見つける
 正規授業とは別にやってみる

TPチャート作成をふりかえり，感想を記入してください。



| 専門 名前 | 作成 目的 | 感想 | |
|----------|----------|-------|----|
| 責 務 | 理念 | | 目標 |
| | 方針 | | |
| | 方法 | | |
| | 改善・努力 | 成果・評価 | |



シェア 4回目

目標と感想

手元のチャートをもとに、ご自身の理念をまえおきにしつつ、長期目標および短期目標を中心に説明してください。

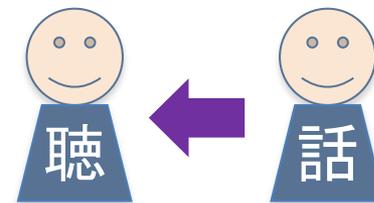
あわせてTPチャートを作成してみた感想をシェアしてください。

シェアのルール

敬意を持って
忌憚なく
建設的に

<話し手>

- 目標を決意表明として相手に説明する
- TPチャートを作成した感想を伝える



<聴き手>

- 聴くことに徹し, 受け入れる
- 相手の振り返りを深めることを目的にしたフィードバック（反応・質問など）をする
- 否定しないこと

TPチャートを作成しました



作った今日がスタートです

- 必要な知識・スキルを獲得→FD

更新をしていくことが改善につながります

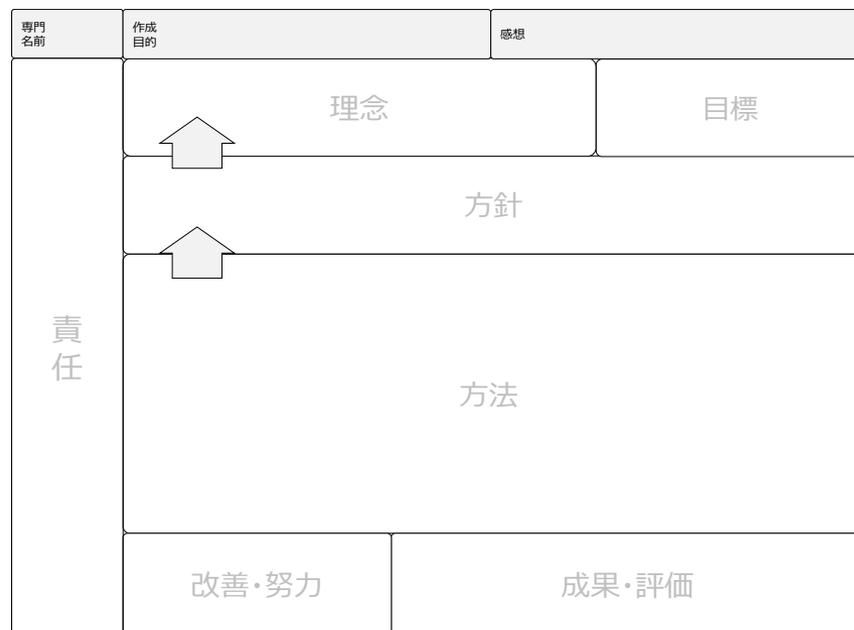
- 青の付箋を黄色に
- 方法の進化
- よりしっくりくる理念、あるいは安定した理念への気付き

作成したTPチャートを見直すことで、よりご自身の教育活動のふりかえりを深めます

TP チャートの見直し

TP チャートを見直す意義

- 理念と方針を中心に TP チャートを見直すことで
 - 理念を明確に見出すことができる
 - 理念と方針の対応づけがより明確になる
 - これらを通してより深い振り返りが実現する



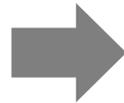
見直しを促す質問

- 理念をチェックする質問
 - 質問1: その理念が大切な理由を教えてください
 - その理念が本当に理念かどうかをチェックする質問
 - 質問2: 具体的にどうなると〇〇といえますか？
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)
 - 抽象的な理念をより具体的にする質問
 - 質問3: 〇〇と△△はどのような関係ですか？
 - 理念に関する深い理解を促す質問 (〇〇、△△は理念の要素)
- 方針と理念をチェックする質問
 - 質問4: 理念を実現するのに、その方針で十分ですか？
 - 理念に対して方針が足りているかをチェックする質問
 - 質問5: 方針に対して理念は対応していますか？
 - 方針に対して理念が足りているかをチェックする質問

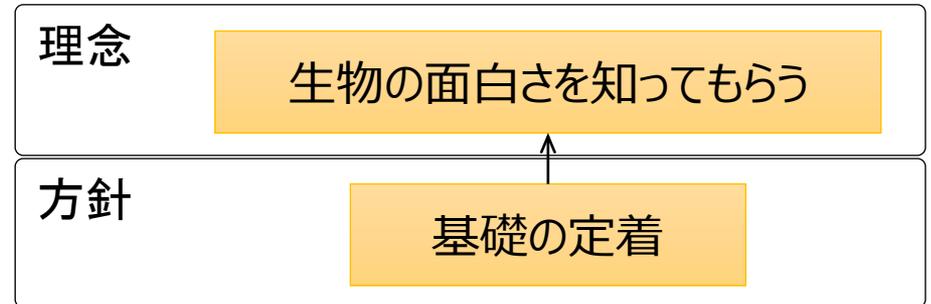
質問1: その理念が大切な理由を教えてください

- 理由がなければ、それは理念
理由があれば、その理由が理念に近い

改善前



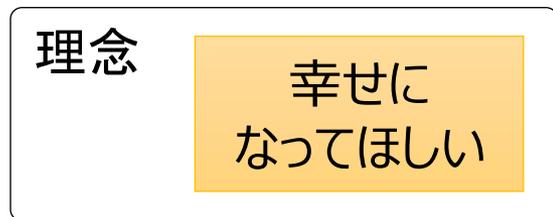
改善後



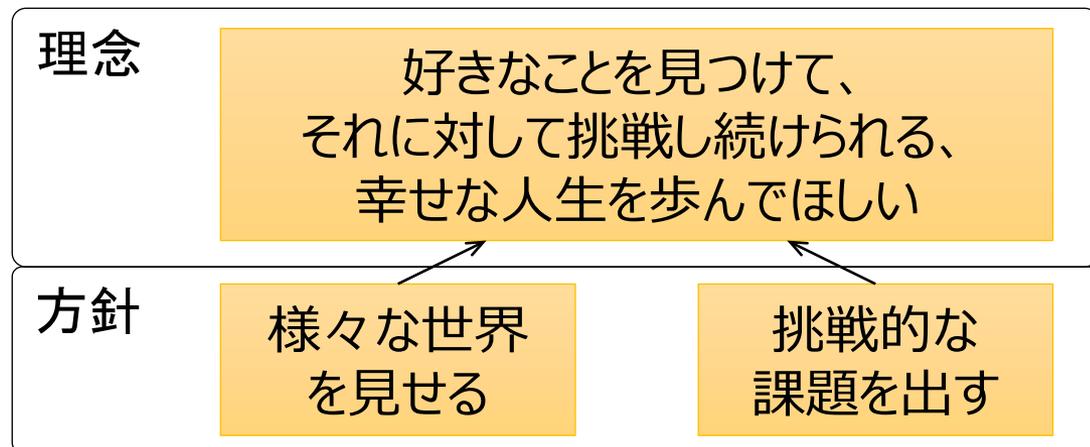
質問2: 具体的にどうなると〇〇といえますか？

- 抽象的な理念を具体的に表現できるようになる
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)

改善前



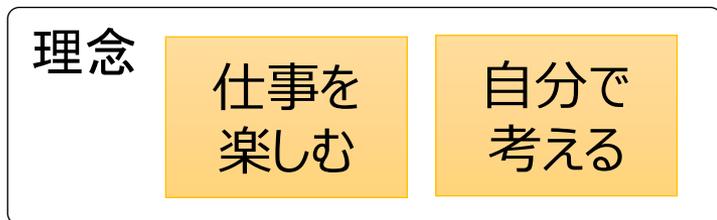
改善後



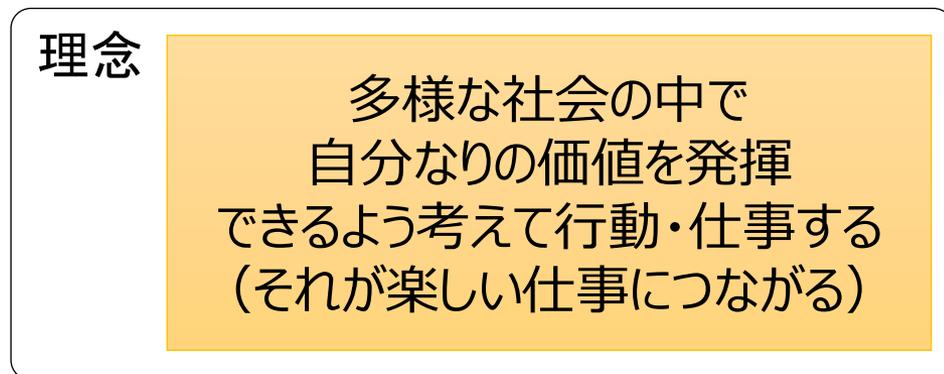
質問3: ○○と△△はどのような関係ですか？

- 関係性を説明することで、理念を深く理解できる
(○○、△△は理念の要素)

改善前



改善後



理念を深める他の質問

- 個人エピソードは理念にどのように影響していますか？
- 生徒・学生にどう育ってほしいですか？
- 教員としてご自身がどうありたいですか？

質問 1, 2, 3 を活用したワーク

- (1人) 理念の要素一つ一つに対して、
質問を使って自問自答する (3分)
 - 質問1: この理念が大切な理由はあるだろうか?
 - 質問2: 具体的にどうなると〇〇といえるだろうか?
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)
 - 質問3: 〇〇と△△はどのような関係だろうか?
- (ペア) 互いの理念の要素に質問 (5分×2)
 - まず話し手が変更点を説明し、聴き手が下記を用いて質問する
 - 質問1: この理念が大切な理由はなんですか?
 - 質問2: 具体的にどうなると〇〇といえるのでしょうか?
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)
 - 質問3: 〇〇と△△はどのような関係ですか?
- (全体) 疑問・コメントを共有

ピアレビューの注意点

- 相手の理念を見出すことを最優先にしてください
- 相手の理念を尊重して、否定しないでください
- 問いかけは建設的に行い、
相手の気づきを促すことをこころがけてください

理念は相手のものですから
指導・詰問ではありません！

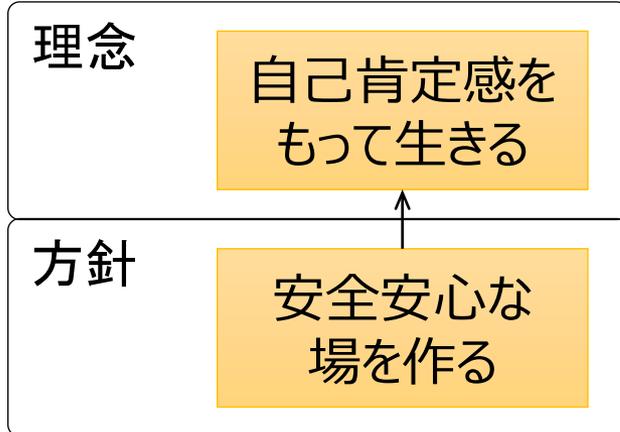
質問 1, 2, 3 を活用したワーク

- (1人) 理念の要素一つ一つに対して、
質問を使って自問自答する (3分)
 - 質問1: この理念が大切な理由はあるだろうか?
 - 質問2: 具体的にどうなると〇〇といえるだろうか?
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)
 - 質問3: 〇〇と△△はどのような関係だろうか?
- (ペア) 互いの理念の要素に質問 (5分×2)
 - まず話し手が変更点を説明し、聴き手が下記を用いて質問する
 - 質問1: この理念が大切な理由はなんですか?
 - 質問2: 具体的にどうなると〇〇といえるのでしょうか?
(〇〇: 楽しい、幸せ、おもしろいなど)
 - 質問3: 〇〇と△△はどのような関係ですか?
- (全体) 疑問・コメントを共有

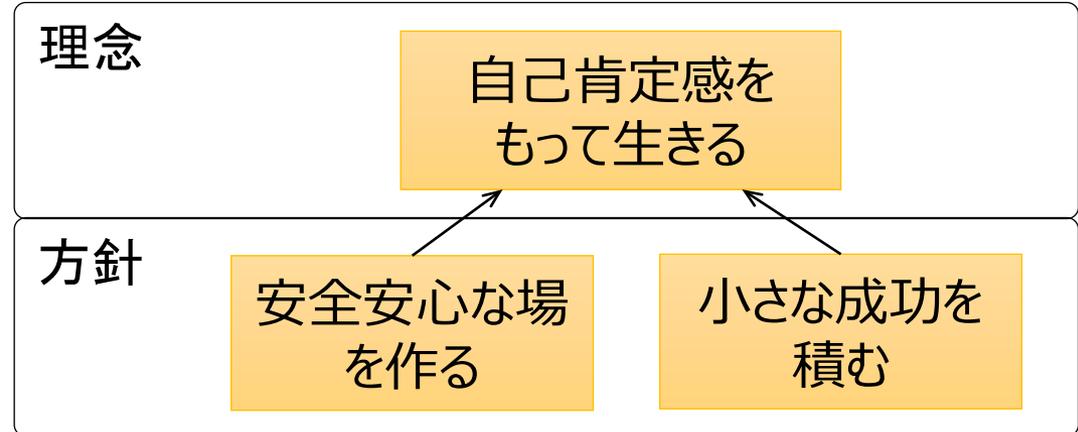
質問4: 理念を実現するのに、その方針で十分ですか？

- 理念に対して方針が足りているかチェックできる

改善前



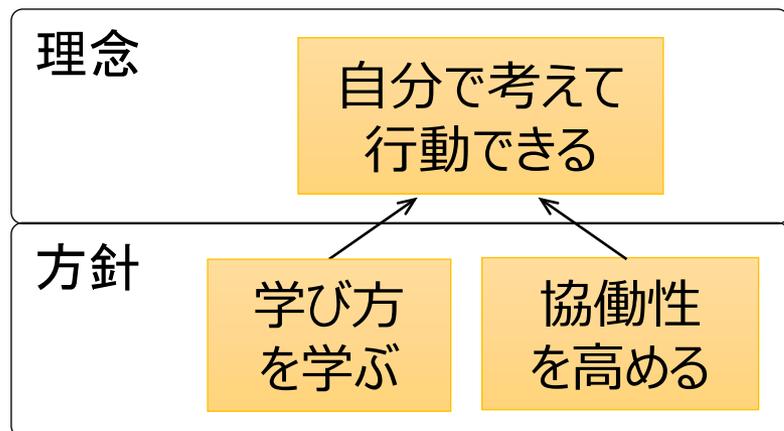
改善後



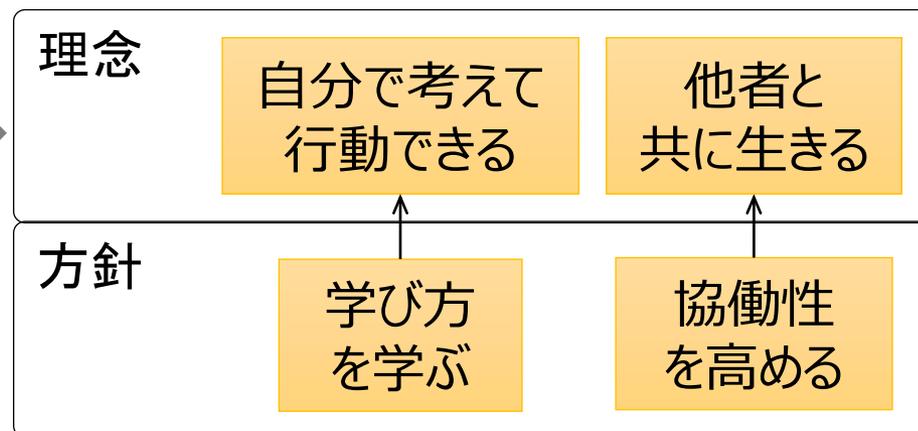
質問5: 方針に対して理念は対応していますか？

- 方針に対して理念が足りているかチェックできる

改善前



改善後



質問 4, 5 を活用したワーク

- (1人) 理念の要素一つ一つに対して、
質問を使って自問自答する (3分)
 - 質問4: 理念を実現するのに、この方針で十分だろうか?
 - 質問5: 方針に対して理念は対応しているだろうか?
- (ペア) 互いの理念の要素に質問 (5分×2)
 - 質問4: 理念を実現するのに、その方針で十分ですか?
 - 質問5: 方針に対して理念は対応していますか?
- (全体) 疑問・コメントを共有

TPチャートを見直しました



教育活動についてより深く考えられましたか？
どんな気付きがありましたか？

共有による改善

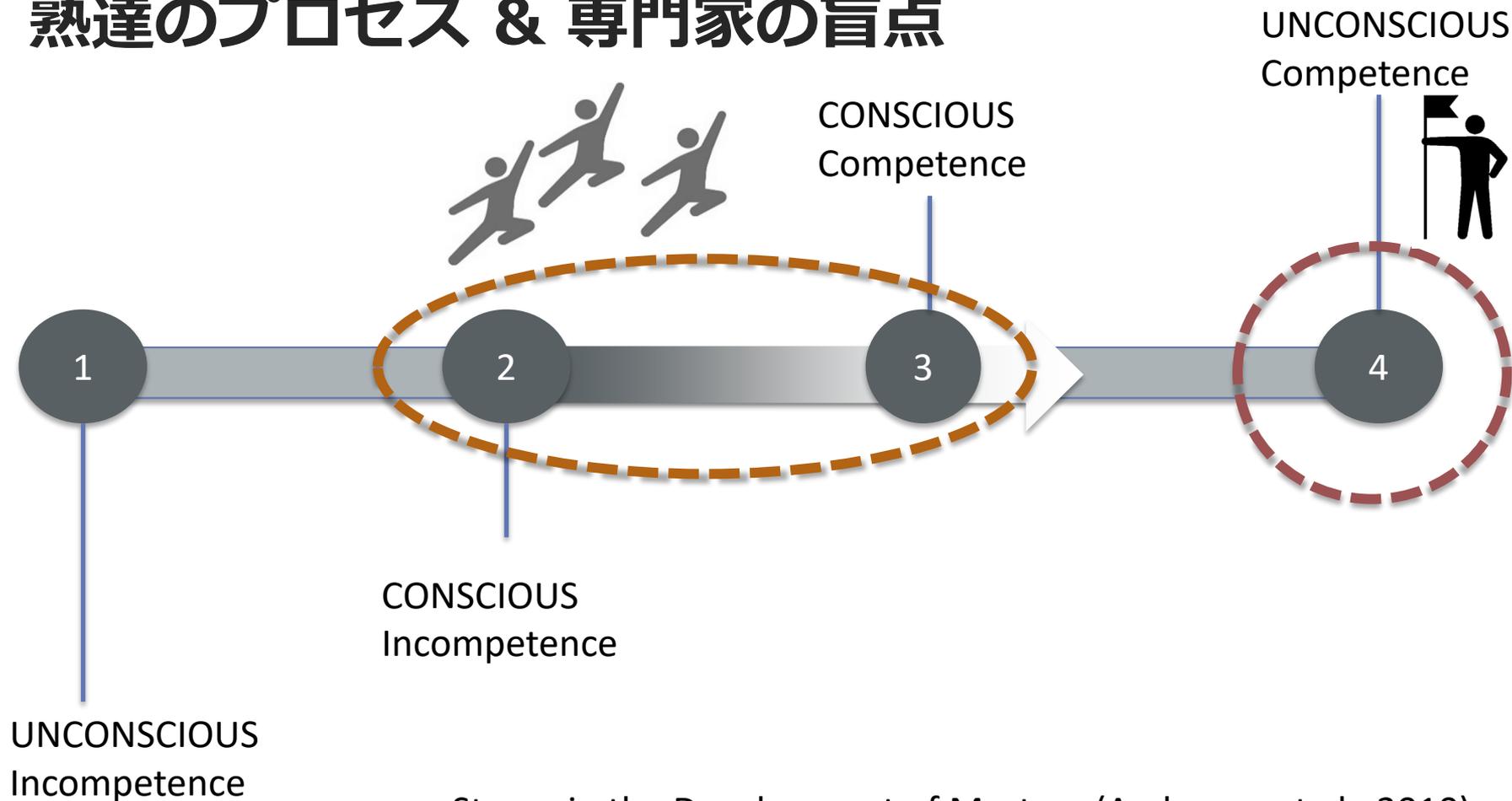
自分の教育を改善する

- (ひとりで) 自分の教育活動について、改善したいと思っていること、困っていることとを書き出す
- (グループ) それぞれの課題・お困りごとを解決 (15分×4名)
 - 相談者が、
 - 自分のTPチャート説明 (理念・方針・方法の順に、5分程度)
 - 次に、特に改善したい、課題だと感じている点を具体的に共有
 - 相談者の理念と照らし合わせながら改善案について議論する
 - いきなり方法の話をするのではなく、なぜその方法を使うのか、理念との対応はどうなっているかを聞きながら、建設的に話し合う
- (全体) 質疑応答

参考資料

授業をするときに . . .

熟達のプロセス & 専門家の盲点



Stages in the Development of Mastery (Ambrose, et al., 2010)

コースデザインの考え方 ～足場かけ～

教員ができること

自律的学習者

• 足場かけ Scaffolding

(Wood, Bruner & Ross, 1976)

- 補強 (モチベーションの持続)
- 自由度の縮小 (タスクの単純化)
- 指示の調整 (適切な方向づけ)
- フラストレーションの制御
- デモンストレーション



• 足場外し Fading

(Collins, Brown & Newman, 1988)

- 必要性解消
- 教育的意図
- 制約および優先順位



これらを参考に
コースデザイン・クラスデザイン

東京大学フューチャーファカルティプログラム

- 全学的プレFDプログラム
- 目的：
 - 学びの喚起に必要な知識・スキルの修得
 - 多様な専門領域にわたるネットワーク構築
- 期間・開催数：半期・4コマ/年
- クラスサイズ：25人/クラス
- 隔週8回，2コマ連続授業（210分）
- 対象：大学院生・PD・教職員
- 特徴：
 - 専門領域・職域を越えた多様な受講者
 - 多様な受講者
 - ALを体験しながら学ぶ
 - 授業自体がモデル
 - 修了後のネットワーク

<http://www.utokyofd.com/>

オンライン講座を公開しています

https://ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11441/

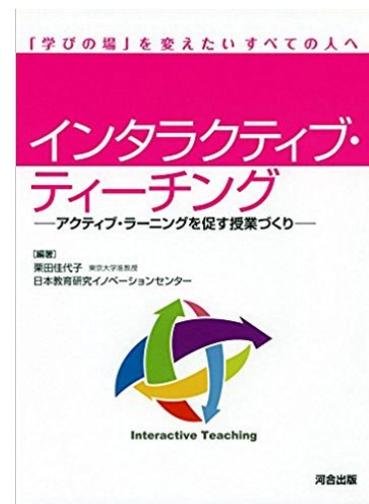


プログラム構成



オンラインリソース

・インタラクティブ・ティーチング



Coursera

<https://www.coursera.org/learn/interactive-teaching?>

東大FDのサイト

<http://www.utokyoofd.com/mooc>

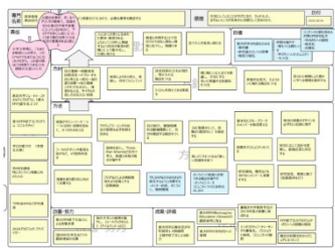
JREC-INでの公開

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

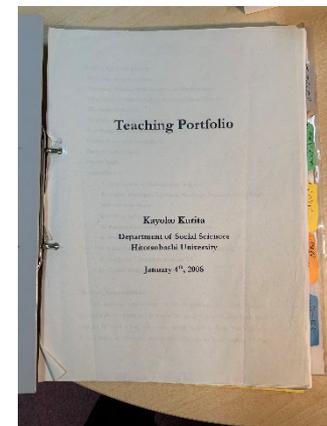


TPチャート・TS・TP

| 種別 | TPチャート | TS ティーチング・ ステートメント | TP ティーチング・ ポートフォリオ |
|------------|--------|--------------------------|--------------------------|
| 分量 | 1枚のシート | 1-3ページ | 8-10ページ |
| 作成時間 | 2時間 | 1日(TPチャート作成済) | 2日半 |
| 作成目的 | 教育改善 | 教育改善・活動の可視化 | 教育改善・活動の可視化 |
| リフレクションの深さ | ○ | ○○ | ○○○ |
| 作成方法 | 大人数 | 大人数 | 少人数 |
| メンター | 不要 | 不要 | 要 |



1 ティーチングステートメント
2 所属 *****高等専門学校
3 氏名 *****
4 【要旨】
5 マテリアル開発コースに所属し専門科目である有機化学を中心とした教育・研究活動を行う
6 っている。また教育活動は化学に関連する科目(一般化学・有機化学・生物化学・環境化学
7 など)の担当、ゼミ生の研究支援、学生のキャリア支援である。
8 【理念】
9 教育のあるべき目標は、自らの経験を活かすために学び続け社会貢献できる人材を育成する
10 ことだと考えている。情報技術の発展により知識の獲得が容易になった現在、学生には明確な
11 ビジョンを持ち、その実現に向けて自ら必要な知識を学ぶ主体的な学習者として欲しい。教
12 員として、主体的に学び続ける姿を模範として示しつつ、学びたいと思う学生と他の教員に身
13 振り学生の成長を支援できる存在でありたいと考えている。
14 【方法・方針】
15 上記の理念を実現するために、以下の教育活動の方法・方針を取り入れている。
16 • 学習者中心の授業を行う
17 学習者が主体的に学び、知識を定着する機会を多く授業を行っている。具体的には質問と
18 アプローチを重視し教員側の知識伝達中心の授業、シラバス上より学習者希望の知識領域
19 に対し情報収集しつつツラアツな教員側を専ら授業を設計しファシリテーターとしている。
20 • 学外の学びの機会と学生をつなぐ
21 授業に学外の講師・専門家を呼び学生が授業で学んでいることと実社会の関連を強調する
22 機会を設けている。また学生が学外の社会人向けの勉強会の開催を積極し、参加を奨励し
23 ている。
24 • 教員の学びの機会を作る
25 学内外で教員勉強会を企画・運営し、授業を改善したい教員が学ぶ場を提供している。
26 【評価・成果】
27 • 11科目を担当し授業評価アンケートで、全科目で4年以上の学生が満足と回答している。
28 • 授業改善の取組として「授業アンケート」を定期的に実施している。
29 • 学内外で2020年10回程度参加し、参加者アンケートで約半数の教員が満足と回答して
30 おり、次年度以降の継続を依頼されている。
31 【目標・アクションプラン】
32 • 教員自身が学外勉強会に参加し、学生や他の教員と交流できよう知識・スキルを学
33 び、活躍している勉強会を構築する。



参考資料

- 栗田佳代子, 吉田壘 (2022) 教育活動の振り返りを目的としたティーチング・ポートフォリオ・チャートおよび作成研修の開発と評価, 高等教育開発, 1, 19-27.
- 栗田佳代子・吉田壘 (2021) 「リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座【Web解説動画付】」医学書院
TPチャートの作成と見直しについてのテキストです。
- 栗田佳代子・吉田壘・大野智久 (編著) (2018) 「教師のための『なりたい教師』になれる本!」学陽書房
初等中等教育担当の先生向けに書かれたTPチャートの作成・見直し・活用についてまとめてあります
- 栗田佳代子・吉田壘 (2018) 「教師個々の軸を確立し、組織づくりへ」キャリアガイダンス 422, 35-39
<https://shingakunet.com/ebook/cg/422/#page=35>
TPチャートについてコンパクトにまとまっている記事です。
- <https://kayokokurita.info/>
TP・TPチャート関係の各種資料がダウンロードできます。
- Facebookグループ ティーチング・ポートフォリオ (TP)
開催情報、各地の開催報告などの共有がされています。



参考資料

- TPチャートについてのQ&A
 - 過去の研修会ででた質問に対し、かんたんに回答しました
 - <https://kayokokurita.info/post-586-2.html>
- TPチャートを動画をみてつくる
 - 今日のTPチャート作成・見直しと同じ形態の動画です
 - <https://kayokokurita.info/post-578-2.html>
- TPチャート作成WSのファシリテーションについて
 - 留意点をまとめたページ
 - <https://kayokokurita.info/tag/%e3%83%95%e3%82%a1%e3%82%b7%e3%83%aa%e3%83%86%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%b3>

参考文献

- Goodyear, G. E., & Allchin, D. (1998). Statements of teaching philosophy. *To improve the academy*, 17(1), 103-121.
- Kurita, K. (2013) Structured strategy for implementation of the teaching portfolio concept in Japan, *International Journal for Academic Development*, *International Journal for Academic Development*, 18(1), 74-88 (DOI :10.1080/1360144X.2011.625622)
- 栗田佳代子, 吉田壘, 大野智久 (編著) (2018) 「教師のための『なりたい教師』になれる本!」 学陽書房
- 栗田佳代子(編) (2012) 「ティーチング・ポートフォリオの導入と次のステップ ― 導入とその先の課題, および更新ワークショップの提案 ―」 大学評価・学位授与機構
- 栗田佳代子(編) (2014) 「ティーチング・ポートフォリオの定着・普及に向けた取り組み―効果検証・質保証・広がり」 大学評価・学位授与機構
- 栗田佳代子, 加藤由香里, 井上史子, 尾澤重知, 北野健一, 城間祥子, 皆本晃弥 (2010) ティーチング・ポートフォリオ: 導入の意義と可能性, *大学教育学会誌*, 32(2), 55-59
- 国立高等専門学校機構「モデルコアカリキュラム(試案)」
<http://www.kosen-k.go.jp/news/news20120419.html>
- 皆本晃弥. (2012). ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド: 大学教員の教育者としての業績記録. 近代科学社.
- 大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 (編) 『実践 ティーチング・ポートフォリオ スターターブック』, NTS出版
- Yoshida, L., & Kurita, K. (2016). Evaluation of Structured Academic Portfolio Chart and Workshop for Reflection on Academic Work. *Procedia Computer Science*, 96, 1454-1462.
- 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳 ピーター・セルディン著(2007) 『大学教育を変える教育業績記録』 玉川大学出版部 (Peter Seldin (2004) *The Teaching Portfolio: A practical guide to improved performance and promotion/tenure decisions* 3rd ed. Anker Publishing Company, Inc.)
- 大学評価・学位授与機構監訳, 栗田佳代子訳, ピーター・セルディン, エリザベス・ミラー著(2009) 『アカデミック・ポートフォリオ』 玉川大学出版部 364ページ (Peter Seldin and J. Elizabeth Miller (2008) *The Academic Portfolio: A Practical Guide to Documenting Teaching, Research, and Service*, Jossey-Bass Higher and Adult Education)
- 吉田壘, 栗田佳代子 (2016) ポートフォリオ作成を支援するメンタリングチェックシートの開発と応用, *大学教育学会誌*, 38(1), 172-180
- 吉田壘, 栗田佳代子 (2015) 大学院生版アカデミック・ポートフォリオの開発, *日本教育工学会論文誌*, 39(1), 1-11